

第2学年「みがく」学習活動案

授業者 神谷 潤

2月14日（金） 2階D室 9：00～9：40

1 活動名 ききあってかんがえよう

2 活動について

子どもたちは、入学当初から、朝のサークル対話をはじめとして、サークルベンチに集まり様々なことを聴きあってきた。自分の思いや言いたいことを他者に押し付けるのではなく、他者の意見を聴くことが前提となっているサークル対話では、自分の意見においても他者に問うことを意味し、自分の意見を述べることで他者の意見や思いを聴くことへとつながっている。こうした互いの考えを聴きあう場に毎日身を置くことで、子どもたちはサークル対話の場を安心安全な環境として築き上げてきた。その中で、1年生の頃から生活の中から立ち上がった問いについて話し合ったり絵本をきっかけに自分たちが不思議だと思うことを聴きあったりする対話をたくさん経験してきた。2年生になってからも、例えば生活のルールを改訂する提案が出された時に、ルールそのものを採用するか否かを問うだけでなく「平等とは何か」「多数決で本当に決定してしまっているのか」といった問題が立ち上がり、そうした問いについて聴きあい考える場面を経験してきている。

今回の活動は、2年生の終盤であり3年生からの「てつがく」につながる時期に、これまでの対話をもとに問いを立ててともに考えることを目的としている。昨年度の公開研究会では「問いを消さない」ことをねらいとして、絵本をきっかけにして子どもたちの問いを聴きあい、不思議だと思うことについて「なぜ」を行き交わす対話に取り組んだ。「問いを消さない」とは、学校生活を含む様々な場面で教育やしつけなどによって主体化されていく子どもたちがそうしたもののから解放されて自らの「なぜ」にひらかれた実践をすることとして考え取り組んできたことである。今年度も「問いを消さない」ことを大切にしながらも、子どもたちが考えた「問い」に寄り添い聴きあうこと、そしてサークルにいる全員で共有された1つの問いについて考えてみる活動に取り組む。子どもたちが普段から不思議だと考えていること、自分たちの生活の中でみんなとともに考えたいことなどについてリストアップし、それぞれの問いについて考える対話を繰り返していく。子どもたち一人ひとりがもつ問いについて聴きあい、寄り添い、ともに考えることは問いを解決することというよりはむしろ他者と問いを共有する営みに近いかもしれない。唯一無二の存在としての他者が抱いている問いに気づき、自分も一緒になって考えてみることの先に、問うことや他者と対話することのおもしろさを感じ「てつがくする」という行為を今の自分を出発点として実践する身体へと自分を導いていくことを願っている。

3 学習活動計画（3時間目／全12時間）

第1次 一人ひとりの問いを聴きあう …2時間

第2次 出された問いについて聴きあって考える …本時1／10時間

4 本時の活動について

（1）本時のねらい

みんなで考えてみようと思った問いについて、互いの考えを聴きあい、考える。

（2）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1. 互いの考えを聴きあうために、ウォーミングアップをする。	・ ピースフルスクールプログラムを参考にしながら、互いの違いを大切にするアクティビティをして安心して対話するためのウォーミングアップをする。
2. みんなで決めた問いについて確認する。	・ 決めた問いがどのようなことを問うているのかを確認する。
3. 問いについて互いの考えを聴きあう。	・ 子ども同士で議論が進むようにするが議論を整理していけるようにかかわる。